

■発行日：2018年10月31日
 ■発行者：栃木県中小企業家同友会
 〒321-0968 栃木県宇都宮市中今泉2-3-13
 TEL 028-612-3826 FAX 028-612-3827
 E-mail：t-doyu@ninus.ocn.ne.jp
 URL：http://www.tochigi.doyu.jp/
 ■企画編集：広報委員会 ■印刷：有限会社 赤札堂印刷所



様

News Topic 01

全国のNEWS 「人を活かす経営」全国交流会 in 宮崎

第6回人を活かす経営全国交流会 in 宮崎が9月13日から14日にかけて開催された。

1日目は『人を活かす経営』の総合実践を一地域の担い手として〜というタイトルで、4人の報告者によるリレー報告が行われ、中同協・人を活かす経営推進協議会代表加藤明彦氏（株エイベックス会長）より、「地域の担い手として中小企業の役割を自覚し、よりよい社会実現へ向けて、『人を活かす経営』の総合実践をどのように進めていきますか？」という問題提起がなされた。

グループ討議の中では、経営者の覚悟とは、社員の人間としての成長、労働環境の改善、能力が最大限に発揮できる機会の提供、といった討議が行われた。さらに討議が深まり、社長も社員も地域の一部だと認識することが大切、社員も本業の中で地域貢献に繋がる業務を担当し「地域から必要とされている」と感じられるような仕事にすべ

き、といった討議に至った。

2日目は、二つの基調報告が行われた。一つ目の基調報告が、宮崎同友会代表理事田原敬介氏（宮崎食研株代表取締役）より、「豊かな未来をひらく中小企業 ～宮崎同友会ビジョンづくりで明確になったこと～」と題して、宮崎同友会のビジョンづくりについて報告が行われた。特に強調されていたのが「中小企業は地域のインフラである」という視点を持つことであった。

二つ目の基調報告は中同協専任講師松井清充氏より『地域のインフラ』を担う中小企業の姿～全国の実践から～の報告を頂いた後、『地域のインフラ』を担う経営者集団へ 同友会として、どのような活動をしていきますか」とのテーマでグループ討議が行われた。

今回の交流会にて、私自身は人間尊重の経営と地域を良くしていくための中小企業の行動につい

第6回 人を活かす経営 全国交流会 in Miyazaki

「人を活かす経営」の総合実践で、**地域のインフラ**を担う

～めざす姿を描き、育ちあふ地域をつくらう～

開催日 **2018年9月13日(木)～14日(金)**

13日(※)全体会 13:00～18:30
 14日(※)全体会 9:00～12:00
 懇話会 19:10～20:40

開催会場 **宮崎観光ホテル** 宮崎県宮崎市中央1-1-1 TEL:0985-27-1212

参加費 **20,000円**(※各費別)

※9月13日のキャンセル料は参加費と同額です。

開催意義

- 1 「労使共創」を学び、経営者(経営理念・10年ビジョン・経営方針・経営計画)の文化と実践運動を通して、「人を活かす経営」の総合実践で成果の出せる企業づくりを企業ごと、力強く推進する契機とします。
- 2 労働環境を整備し、採用と教育を一体として経営者をはじめとした経営者や多様な働き手への対応を求めます。あわせて地域と日本経済の担い手としての中小企業への期待を高め、地域に人を育てて人を活かす運動を促す契機とします。
- 3 4委員会(経営分科・共創求人・社員教育・経営者問題)が合同して交流会を行い、それぞれ活動の実践的な経験を交流することで、「人を活かす経営」を深め、企業の経営実践に結びつける運動の体系化を行います。
- 4 「人を活かす経営」を実践する同友会の存在意義を会内外に情報発信し、2019年度5万会員達成に向けて、支部・地区と連携して、同友会の企業づくり運動を広げます。

スケジュール

1日目(9月13日)		2日目(9月14日)	
12:00	受付開始	9:00	全体会開始
13:00	全体会開会	9:10	基調報告
13:20	リレー報告	10:20	グループ討議
15:30	閉会礼辞	11:20	グループ懇話会(2時)
16:00	グループ討議	11:40	4委員会委員長 行動提議(2日間のまとめ)
18:00	討議発表(1日のおまとめ)	11:55	閉会(次回開催地ありきつ)
19:10	懇話会	12:00	終了
20:40	1日目終了		

※ 中小企業家同友会全国協議会 TEL:03-5212-2877 FAX:03-5212-2878
 ※ 宮崎県中小企業家同友会 TEL:0985-27-1212 FAX:0985-27-1213

1日目 「人を活かす経営」の総合実践を一地域の担い手として

「人を活かす経営」の総合実践で、地域に人を育てる実践運動を広げることが重要となっています。4名のリレー報告から、地域の担い手としての中小企業の役割を考え、企業づくりの実践的な交流を深めます。

新卒採用で会社が変わった!
 一人ひとりに対して「育ちあふ」の姿勢で、新卒採用を成功させた事例を報告し、新卒採用の重要性を再認識し、企業文化の醸成について実践的な交流を行います。

佐藤 進幸氏
 株式会社 佐藤 代表取締役社長
 株式会社 佐藤 代表取締役社長

就労困難者を企業に、共生社会の実現へ
 就労困難者を企業に、共生社会の実現へ。就労困難者を企業に、共生社会の実現へ。就労困難者を企業に、共生社会の実現へ。

根本 重秋氏
 株式会社 根本 代表取締役社長
 株式会社 根本 代表取締役社長

感謝と「承認」の風土づくりと新しい働き方へのチャレンジ
 一人ひとりの成長を促す経営で、新しい働き方へのチャレンジ。一人ひとりの成長を促す経営で、新しい働き方へのチャレンジ。

福留 進一氏
 株式会社 福留 代表取締役社長
 株式会社 福留 代表取締役社長

ワンマン経営からの脱却! いかに社員の主体性を引き出すか!
 経営者一人ひとりの成長を促す経営で、ワンマン経営からの脱却! いかに社員の主体性を引き出すか!

田中正志氏
 株式会社 田中 代表取締役社長
 株式会社 田中 代表取締役社長

企業経営を通して、よりよい社会を実現するために
 中同協・人を活かす経営推進協議会 代表
 加藤 明彦氏

2日目

宮崎県中小企業家同友会ビジョンづくりで「地域のインフラ」としての中小企業の姿、宮崎同友会からビジョンづくりの取り組みを、松井氏より「地域のインフラ」の実践の姿を全国の実践事例を交えての報告です。

宮崎同友会ビジョンづくりの取り組みから
 ～ビジョンづくりで明確になったこと～
 田原 敬介氏

「地域のインフラ」を担う中小企業の姿
 ～全国の実践から～
 松井 清充氏

人を活かす経営 全国交流会 in Miyazaki **参加申込書** (申し込みは2018年9月13日(木)18時迄)

名前	所属会社
企業名	役職

※ 申込書は1日1部限りです。申込書は1日1部限りです。申込書は1日1部限りです。

ての繋がりを学ぶことができた。この学びを自社へ持ち帰り実践し、栃木同友会へその実践体験を伝えて行きたいと感じた。

[文] (株)ウイステリア コンパス 斎藤秀樹

こいあい税務会計
片平氏

10月16日第4回県央支部例会が宇都宮市東市民活動センターで行われた。今年度の県央支部は、個人事業主・小規模事業の方向けに、「経営を考える上で役に立つことを学ぶ例会」をテーマにしている。

今回はこいあい税務会計の片平氏が来年度の消費税増税で、インボイス制度の導入がこれからの経営にどのような影響を与えるかということに焦点を絞り報告に立った。例会では架空事例を基に実際に計算をしてインボイス方式導入後の税負担の変化を疑似体験した。インボイス方式では、消費税が免税される事業者と取引を行った企業が、

免税される分の消費税を負担するという仕組みとなり、消費税増税5年後から施行されるという。実際に導入されれば、免税されている事業者だけでなく、取引先に多大な影響を及ぼすことから、今後の取引続行が困難になる免税業者が少なくない事が想定される。実際の税負担については今後の政府の動向を見守る必要があるが、体質改善を迫られる法改正であることから、早めの準備と情報収集が必要になりそうだ

[文] 事務局 二階堂英夫

売価 110円 <small>(内、消費税 10円)</small>	仕入 55円 <small>(内、消費税 5円)</small>
	利益 55円

消費税はどこから払う？

本年度2回目の中小企業家同友会を知る会（新会員オリエンテーション）が10月10日フォローアップ委員会主催にて、宇都宮市民活動センターにて行われた。「新会員の方に、同友会の歴史や理念を学んで頂く事」がその目的である。これまでは年1回のペースでの開催であったが、「1日も早く同友会に慣れて頂きたい、会として新会員の歓迎を形として表したい」との同委員会の考えから、今年度は4半期毎と開催を増やしている。当日は「同友会の生い立ちは？」「自主民主連帯と

は？」等14のテーマを設定、先輩会員による体験を踏まえての説明が行われた。その後のフリートークセッションでは「学びたい事は何か？」「現在の経営課題は何か？」等が話題としてあがり、より具体的な討議は熱気溢れるものとなった。新人会員においては同友会を知る事ができ、ベテラン会員においては同友会を振り返る事ができるお互いにとってのよい機会となった。

[文] 福田忠史

さる10月17日、鹿沼・日光支部準備会例会が日光市中央公民館に於いて行われた。

同友会の例会が日光市で行われるのは初めての試みだったが、鹿沼・日光の地元を中心に10名を超えるゲストが集まり、支部設立に対する期待度が感じられた。

例会は「経営指針を検討したら自分が自社がどう変わったか？」をテーマに今年度の経営指針をつくる会の卒業生(株)行廣国際アカデミー行廣智明社長が報告に立った。

大学でベトナム語を専攻した氏が、日本（日光市や栃木市）とアジアを繋ぎ、日本にやってくる外国人労働者が日本で幸せに暮らせる環境づくりのため取り組んでいる日本語学校の経営や、鬼怒川のホテルで働く卒業生家族の話、また、経営指針

をつくる会に参加して、社員への思いが変わったことなどを報告して頂いた。参加者からは『“人材を育てる”から、“人材が輝く場をつくる”と理念が変わり、社員や留学生在が主体性をもって輝ける職場づくりを意識することで、経営戦略マップも変わった。』という報告を聞いて自社と重なるものを感じ、元気をもらった。また、『10年ビジョンを導入するときは長く働いている社員から意見を聞いていくこと、よく知っているだけに理解が得やすい』とのお話から自社でも実践したいと思った。』といった感想が寄せられるなど、学びの多い例会となった。

[文] 事務局 二階堂英夫

鹿沼日光支部準備会
行廣氏